※令和４年度以降入学生用

学校番号	106

令和８年度　理科

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	改訂　物理基礎　（東京書籍）						
副教材等	ベストフィット物理基礎　New Edition　（実教出版株式会社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

物理学は自然現象が「なぜそうなるのか」を体系立てて理解し、考察する学問です。現象を説明し、表現する道具として数学の知識が多用されます。そのため、中学校までに学習した数学は必ず復習しておいてください。また、問題は必ず自分で計算して解くこと。「暗記に頼った勉強法のみ」では必ずつまずきます。

2　学習の到達目標

(1) 知識及び技能：用語、公式、物理記号の意味、単位等の基本知識を身に付けたうえで、最低限の計算力ができる。
(2) 思考力、判断力、表現力等：一見複雑に見える問題を解析し、より単純な現象に分解するとともに、それらを基本的な知識や公式等を複合的に用いて解決できる発想力・思考力・実行力を身に付ける。
(3) 学びに向かう力、人間性等：物理学を積極的かつ発展的に習得しようとする姿勢・態度を有する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自然の事柄・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけて、活用できる。	自然の事柄・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事柄・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を有している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	物体の運動	速度 加速度 落体の運動	a:物体の運動の表し方について直線運動を中心に理解する。 b:速度と時間の関係を見出す中で、物体が直線運動する場合の加速度を理解する。 c:物体が落下する際の加速運動の特徴を理解する。	定期考査	定期考査	提出物 小テスト
	力と運動	力 運動の法則	a:物体に働く力を正確に図示できる。 b:物体に働く力のつり合いを理解する。 c:物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見出して理解するとともに、運動の三法則を理解する。	定期考査	定期考査	提出物 小テスト
2		様々な力と運動	a:様々な力が物体に働く場合の運動の法則の適用方法を理解し、応用力を身に着ける。	定期考査	定期考査	提出物 小テスト
	仕事とエネルギー	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー	a:仕事、エネルギーという物理概念を理解する。 b:運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解する。 c:重力による位置エネルギーは基準面によって値が定まることを理解する。	定期考査	定期考査	提出物 小テスト
3		力学的エネルギーの保存	a:力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する。	定期考査	定期考査	提出物 小テスト
	熱とエネルギー	熱と温度 熱量 熱の利用	a:熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する。 b:熱量という概念を理解し、熱量保存の法則を用いて熱の移動がともなった現象を理解すること。 c:熱の移動および熱と仕事の変換について理解すること。	定期考査	定期考査	提出物 小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度